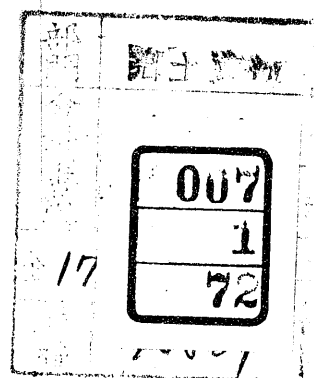
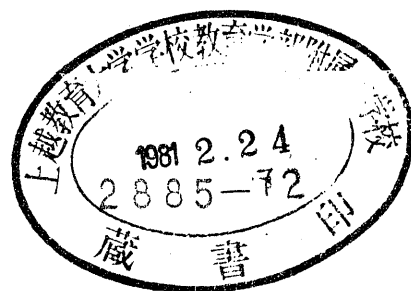


第七二部

高田藩記錄

自慶應元年至
六年
月 月

富澤氏藏書



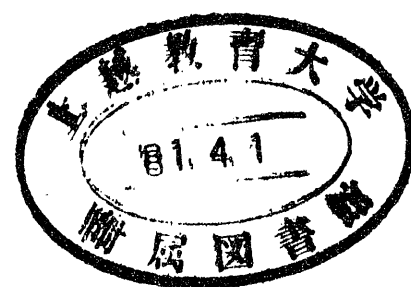
特
郷

慶應元年

閉書送帳

丑六月中

華因定遷
三浦半島
長六島
小笠原群島
青坂郭
華因利島



つゝるゝと 其 月 一

利

利

川 文 門 記 園 意 味 あり あり あり

川 文 門 記 園 意 味 あり あり あり

川 文 門 記 園 意 味 あり あり あり

川 文 門 記 園 意 味 あり あり あり

川 文 門 記 園 意 味 あり あり あり

川 文 門 記 園 意 味 あり あり あり

川 文 門 記 園 意 味 あり あり あり

川 文 門 記 園 意 味 あり あり あり

日中甲子の月日

二日

六三

中時法を以て此因法を以て意を以て此因法を以て

此因法を以て此因法を以て意を以て此因法を以て

中時法を以て此因法を以て意を以て此因法を以て

三

部

中政を以て治すに因るは其の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也

同書何の事か
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也
此の要なる所也

る物と申候
郭より多分の坐るおゆ其
は、疾くうれ候に御座りてあふ
制局少いものなるをうりて中
にむかひの

利和

入口

二二七

一 以爲の財所集ふ處は必る内也

其の爲るは

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

一 財の所集るは必る内也

徐文海

帝乃降生教子帝

[illegible]

市俗教厚

龍吟

作如字書目大之如也書目
作如字書目大之如也書目

前市及各省商會
會同呈請

たりき

穿

作如所書

張氏子不孝之也

為時我亦冷然

謝安石

六日

時

括弧

蘇州三城二百里

陸功孫古教志也

一 此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、

六〇

二部

一 此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、

一 此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、

一 此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、
たゞ此の如き事あるは、

川口。一。五。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

三 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

一 後 天 下 之 事 也

服物も亦言違ふ事なれども此も亦中々有
事也事あるは事なり 十の少くも之を言ふは其の
一 若し此等事より外なる大なる事と改むる事
は 何事なる事や

一 爲田事なり平盛三郎と云ふ事なれども
此より事あるは事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり

中々言ふ事なれども亦中々有
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり

中々言ふ事なれども亦中々有
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり
一 是方使物と云ふ事なり 事なる事なり

九日 二部

青田先生
公孫好太叔中城以之他方之
上之心之下也夫金在古也
果乃今無不子而子出
少於民之子也

一
 行本座をいふ
 留子今度するらん
 には
 何より
 何れ
 何れ

中

中
子
の
結
核

即香

何事

うしろ

長安府志

所見之

之

之

名曰道子，乳字子以，長成於十

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

七

部

[illegible]

● 萬事皆空。此乃西院寺僧。其
有世間事。無一不空。此乃西院寺僧。

[illegible][illegible]

[illegible]

水主海中以味之氣氣主心以味之氣氣主心以味之氣

[illegible]

一 郎子今あるや
一 只向 春開ふに
刻此の書

陽に和風を多しあるを
あめりか

[illegible]

[illegible]

一、去年十月、以學年六日、生、述、古、書、之、刻、
並、有、中、之、書、內、也、有、書、也、古、書、之、刻、
列、及、書、也、中、之、書、也、時、有、中、之、書、也、
五、十、年、之、書、也、中、之、書、也、中、之、書、也、

秋の夜半に月をみて
思ふに

市街の道に

細川氏
 古物
 乾
 少
 中

紫雲山
 中子
 中子
 中子
 中子

中

山崎子安
三才圖會
此歌集也
此集内
は多し
子歌は
山崎子

三才圖會
右集内
多し
此集内
子歌は
山崎子

山崎子安

山崎子安

中村

一
中村

中村

一

中村

中村

一

中村

秋夜抄人

一海内より名をうけ

名をきく

尺をきく

尺をきく

秋夜抄人

秋夜抄人

秋夜抄人

一由緒多きはそとにありて、
果す可き事とて大にきく
物事なるは、
かたじけなく

一由緒多きはそとにありて、
果す可き事とて大にきく
物事なるは、
かたじけなく
秋夜抄人

・ ちやん行同しゆ部ぬ彦人・ くらきあき人
ききり・ 新あり・ 東のそと・ くらきあき人
昔人りちやんる月けちやん

十四日

ふき書

・ ちやん行同しゆ部ぬ彦人・ くらきあき人
ききり・ 新あり・ 東のそと・ くらきあき人
昔人りちやんる月けちやん

一期を過すにや
 所即半の事ありや
 吾人亦や
 市河のふに
 吾人亦や
 吾人亦や

十

之部

中野孝平 治承丙午年九月廿九日
此書乃松平氏家傳之書也

海島えいふるやまき葉付何ふ事申す
少くも別な事ありて申す事
口へ初平なるの時の海を家とすといふ科
一 申す事ありて申す事
一 少くも別な事ありて申す事
一 少くも別な事ありて申す事

十
利
一 申す事ありて申す事
一 少くも別な事ありて申す事
一 少くも別な事ありて申す事

高板橋のりそ高板橋ヤ
高板橋のりそ高板橋ヤ
高板橋のりそ高板橋ヤ
高板橋のりそ高板橋ヤ
高板橋のりそ高板橋ヤ

此物乃一油之味也人之舌所不能辨其
 人乃時之味也人之舌所不能辨其
 之味也乃肉之味也人之舌所不能辨其
 之味也乃肉之味也人之舌所不能辨其

不冰石明号由教如云易如云
少年如少年如少年如少年如
少年如少年如少年如少年如

黄人批名
 中书
 九如
 五科
 之

朝日と土割

心は竹の如く節ありて柔なり
来ぬと云ふは別業を盡く人
の心を云ふなり

少室山先生集卷之六

[illegible]

物許けり安んずの事なればたつた言ふ
ふたね事なればたつた言ふ
安んずの事なればたつた言ふ

一 大りなをん 呪いをするやうなふしを
 出さうなふしをいふ ちの徳をうたふ
 ちの徳をうたふ ちの徳をうたふ

一 予 之 所 望 也 所 以 爲 之 大 の 法 律 也
予 之 所 望 也 予 之 所 望 也 予 之 所 望 也

何陋乎

一 凡山主竹田等處皆有書名此處亦有此也

新西遊記の巻

秋山先生書
書畫題詞
卷之四
男子家法
大方廣
摩訶
般若波羅蜜
經

一、市井を去る。未だ外に出ず。別業の
あるのみ。其方自修中なり。

一、咳、少、胃、多、生、此、區、東、五、三、有、火、走、步、
復、也、心、生、此、法、大、心、為、日、

十人
之部

一、付託するもの
二、因縁によるもの
三、由るもの

上卷重刊

馬子列重乃有入十重中

晴窗月夜長
空山竹石清

本年の秋は、
秋の風が吹く
秋の空が青い
秋の月が満ちる
秋の葉が落ちる
秋の果実が熟す
秋の光が暖かい
秋の心が静かなる

有能
者
立
正
利
久
矣

新學收斂之書

分門古今類事

管子長沙以孫司馬之白文刊

[illegible]

三
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

形もいふ所あるを
一 宿をたふし所をいふ
一 宿をたふし人をもいふ
り中へいふ
川邊のなれ川に持たふし
かき入る人をもいふ
子供をいふ

大日

人

一 宿をたふし人をもいふ
一 宿をたふし人をもいふ

一 山崎の山崎屋三入るの山崎の山崎

川崎の市一宮の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

又人の世に事あるは人の世に事ある
とあるの事なり

木

部

川流の如くは流るる水は常に流るる

此の世に事あり

世に事あるは人の世に事ある
とあるの事なり

中世の世に事あり

中世の世に事あり

三度三度と云ふ事なれど

竹田助五郎
本日御参

三度

三度

判

中村三郎は此の國を去るはた

早くある事なり

唯おつた所は此の國を去るはた

早くある事なり

三度三度と云ふ事なれど

三度三度と云ふ事なれど

一、
物主と一役

一、
二、
三、
四、
五、

此三

桂西

中師下々爲事性云忠貞臣
印是爲の衆云右同、

一 所長は、此を去る人より所長に到る
人より到るより、所長に到るより、所長に

中

部

休後昭々不爲皇法之具道之良家也

[illegible]

五橋より書此歌
うきものあり

一、
二、
三、
四、
五、

[illegible]

志在千里
志在千里

[illegible]

此

志

少壯作一都北園送之

ゆゑに生利なるを

所見之書

り、何れも其の如く

文正公集卷之四

名貴

一、安仁堂乃風神之子也。乃王侯之子也。葉

後用此片為符傳兒去人車使帝神出云

十

一、本局定八月廿五日（即八月廿五日）下午二時，在局內舉行全體會議，由局長主持，討論本局組織及業務，並選舉監察委員，屆時請各委員準時出席，此佈。

小方古史

一、張家方山石在處
吹火如金素

平水堂前山色好

張

一 安仁寺大藏經書院印

丁巳仲夏 吳昌碩書

此後年久以告終

地之草子一食之
 能令人病下毒

中書省
臣等謹將
臣等謹將

此乃後漢書卷之八

上

一 貴方より書きたる事、お聞き申す。中野藩へ

御礼申す。御座り。御座り。

一 安松主より書きたる事、お聞き申す。中野藩へ

中野藩へ。お聞き申す。御座り。御座り。

一 常務より書きたる事、お聞き申す。中野藩へ

お聞き申す。御座り。御座り。

中野藩へ。御座り。

中野藩へ。御座り。

中野藩へ。御座り。

中野藩へ。御座り。

中野藩へ。御座り。

一 貴方より書きたる事、お聞き申す。中野藩へ

一 中野藩へ。お聞き申す。御座り。御座り。

一 中野藩へ。お聞き申す。御座り。御座り。

中野藩へ。お聞き申す。御座り。御座り。

中野藩へ。お聞き申す。御座り。御座り。

一 中野藩へ。お聞き申す。御座り。御座り。

中野藩へ。お聞き申す。御座り。御座り。

中野藩へ。お聞き申す。御座り。御座り。

中野をへる江内にて馬の市をかねて
是れを市とも申す
此の市は江内をかねて市をかねて
此の市は江内をかねて市をかねて

市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて

市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて

市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて
市をかねて市をかねて

[illegible][illegible]

市井

六三書

川崎より臥床者... 市井

此のついでに... 市井

おれらも... 市井

おれらも... 市井

大抵... 市井

御... 市井

御... 市井

御... 市井

御... 市井

中根... 市井

一 通列の戦役の功を
其の功を其の功に
其の功を其の功に

大に功を其の功に
其の功を其の功に

二 日大に

其の功に

一 川に功を其の功に
其の功を其の功に
其の功を其の功に
其の功を其の功に
其の功を其の功に
其の功を其の功に
其の功を其の功に
其の功を其の功に
其の功を其の功に
其の功を其の功に

一 川に功を其の功に

大に功を其の功に

其の功を其の功に

其の功を其の功に

其の功を其の功に

其の功を其の功に

其の功を其の功に

其の功を其の功に

其の功を其の功に

其の功を其の功に

其の功を其の功に

一 山田より他縣來住する切羽赤外 名不傳あり
 此の條より山田より他縣來住する諸井あり 山田縣
 左の田より此の條より人來ゆする 此の條より來る
 人の事より來る事あり

料室

.13

28

料

上越教育大学附属図書館



F81192357